

<実践事例>○平成 21 年度 研究委嘱地域の取組

研究委嘱 栄養教諭を中核とした食育推進事業

研究主題（実践中心校：上尾市立東小学校）

「食」で育てよう 豊かな人間性～自ら健康づくりにはげむ 東っ子の育成～

上尾市教育委員会

I 研究の概要

1 事業取組の趣旨

社会の急激な変化と飽食の時代にあり、「食」に対する意識も大きく変化している。栄養の偏り、不規則な食事、孤食、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩身志向などの問題があり、上尾市においても「食」を通して子どもたちの豊かな人間性をはぐくむことが喫緊の課題である。栄養教諭の配置が進むことにより、食に関する指導に係る全体計画、年間指導計画に基づいた体系的・継続的な学校全体の取組が期待されている。

このことから、「『食』で育てよう 豊かな人間性」を研究主題として設定し、以下の3つテーマを掲げ、栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携体制のもと、研究に取り組み、食育の推進を図った。

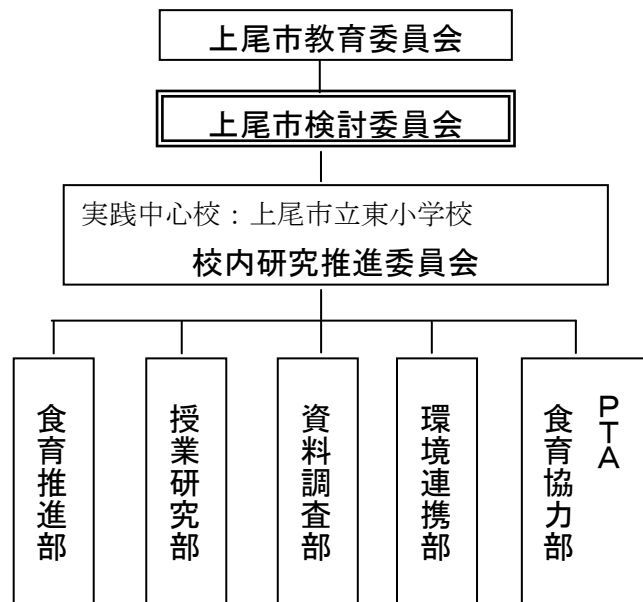
- ①子どもたちの望ましい食習慣形成
- ②食に関する指導の充実
- ③家庭・地域への発信と連携

2 事業の実施体制

事業の実施に当たり、学校医、地域生産者、PTA、市内栄養教諭、市栄養士研究会等からなる検討委員会を設置した。学校における食育のあり方について、様々な立場からの意見をいただき、実践中心校の食育実践に生かすとともに、市内全体の食育推進を図ることをめざした。

同時に、学校の食育の取組について、広く理解を得る貴重な機会ともなった。

検討委員会の議論を通し、学校が保護者、地域をはじめ様々な人々との絆を深めることの大切さを再認識した。



II 実践中心校の実践事例

毎日行われる給食指導の徹底を基本として、各教科・領域における体験活動を重視した授業実践、行事の見直し等、家庭・地域と連携を図りながら、栄養教諭を中核として全教育活動を通して食育の推進を図った。

1 学年テーマと取り組み

■1学年『のこさずたべてげん気なからだ』

二十日だいこんを育てた。はしの使い方を栄養教諭から教わった。



■2学年『やさいとなかよくなるう』

野菜を育て、親子でサラダ作り。給食の食材にも。野菜嫌いが減った。



■3学年『くらしに生かそう先人たちのちえ』

学活、国語社会などで食育授業。総合で、先人たちの知恵を学んだ。



■4学年『バランスよく食べよう』

栄養教諭から、発育には食事、運動、休養が大切だと教わった。



■5学年『お米の元気いただきます』

バケツ稲作り、飯盒炊飯、調理実習。自らの健康づくりを考えた。



■6学年『よりよく食べてよりよく生きよう』

家庭科で栄養教諭から専門的授業。連合運動会に向け、食を改善した。



■なかよし学級『きれいに・そだてて・かんがえて』

学校の農園「なんの園」で、心をこめて野菜を育てた。



食育だよりの発行



2 各部の取り組み

各部が組織的・機能的に食育を推進した。調査、授業研究、掲示の工夫、啓発活動等。

栄養教諭とチームティーチング

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

効果があった実践は、全教職員による授業研究会、栽培体験活動と収穫物の給食利用、お弁当の日、親子料理教室、給食指導の徹底であり、教員、児童、保護者・地域の意識向上を図ることができた。家庭・地域との更なる連携が今後の課題である。

